

令和6年度 学校経営報告書（自己評価）

学校番号	82	学 校 名	静岡県立浜北西高等学校	校 長 名	邑田 聡一
------	----	-------	-------------	-------	-------

本年度の取組（重点目標はゴシック体で記載）

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
ア	確かな学力の育成	「授業に意欲的に取り組んでいる」と答える生徒 85%以上 「授業に満足している」と答える生徒 80%以上 「毎日家庭学習に取り組んでいる」と答える生徒 70%以上	「授業に意欲的に取り組んでいる」89.2%、「授業に満足している」82.4%、「毎日家庭学習を行っている」43.0%であった。 - 家庭学習は昨年より4.6%低下した。学習時間が少なく、継続的な学びの習慣が身についていない。	B	- 授業に関する成果目標は達成した。次年度以降も、より良い授業を目指し、研修を企画・実施する。 - 課題は、学びの習慣の定着である。週末課題や小テストなど、学習をしなければならない状況を作り出すような仕掛けや工夫が必要である。
		「進路実現のための努力をしている」と答える生徒 80%以上 - 新しい大学入試に対応した指導の実施（授業・検定・進路課外等） - 進路課外等の計画的実施	「進路実現のための努力をしている」と答えた生徒は78.1% - 様々な場面で教科指導や面接・小論文指導等の支援を行った。 - 各学年で生徒の実態にあった課外を実施した。	A	- 学校推薦型選抜を受験する生徒が多いため、面接・小論文指導を全教員で手厚く行っているが、一般選抜に向けた教科の学力を向上させる必要がある。 - 総合型選抜で不合格となる生徒が多いため、来年度は総合型選抜対策にも力を入れていく。
		- 月末読書量統計をとり、読書の推進を図る。 - 年間7冊（11月末6冊）以上の生徒80%以上	1・2年生を対象に読書週間を設け、図書館に足を運ぶよう働きかけた。 - 書籍購入に図書委員の生徒が関わるようにした。 6冊以上読書をした生徒は72%（11月末）	B	- 読書週間中は図書館に足を運ぶ生徒が増えた。 - 書籍購入に生徒が関わることで図書が充実した。 - 次年度は読書調査の方法を見直し、正確な読書量の把握に努める。
		（観点別評価）学校として、教科としての統一を図る。	教科主任者会を通して毎学期統一理解を図ることができた。	A	観点別評価については、問題なく実施できた。
	教員の授業力向上	- チャレンジ授業一人年間1回以上、授業見学（他教科も含め）2回以上 - Find アクティブラーナー視聴回数増加、研修の実施	- チャレンジ授業の実施は全員1回以上できたが、見学2回以上は達成できなかった。 - 予備校等の教科指導力向上セミナーに4名参加。 - ICTを授業で活用する教員が増えた。授業はもちろん、授業以外でも生徒端末の利用が増加した。	B	- ICTや対話的・思考的な授業に挑戦する教員が多くみられた一方で、授業見学は徹底できず、方法を工夫する必要がある。 - 次年度は生徒端末が全学年揃うので、研修テーマをICT活用とする予定である。

イ	「時を守り、場を清め、礼を正す」指導と規範意識の醸成	・各学年初期・中期指導 6 時間以上 ・学年集会の開催年間 8 回以上、集会時の遅刻 0% ・時間を管理し、4 点固定の中の家庭学習の開始時間を守ることができたと答える生徒 80% 以上	・各学年におけるタイミン グを見ての集会や全校集 会の実施など効果的な指 導ができた。 ・家庭学習の開始時間を守 ることができたと答えた 生徒は全体で 56.6%であ った。	B	・年度当初の初期指導はし っかりとできたが、徐々 に朝の登校時間が遅くな り、時間に余裕を持った 行動ができていると言 えない。タイムマネジメ ントを意識させる指導を 行っていきたい。 ・全生徒の半数以上が手帳 を活用し、家庭学習の開 始時間を守ることができ たが、約半数は守れてい ない。時間管理の大切さ を認識させる働きかけが 必要である。
		・整備委員会の活動 年間 5 回以上 ・清掃用具点検転換 3 回以上	・年間 5 回以上実施した。 大掃除、エアコンフィル タの掃除、文化祭のゴミ 出し管理等の業務を委員 が主体的に行った。 ・掃除用具の点検を年間 3 回以上実施できた。	A	・整備委員の生徒を中心に、 校内美化のための業務分 担や説明・指示がスムーズ に行えた。次年度は、ICT を活用した機能的・効率的 な取組に挑戦したい。 ・今後もこまめに用具点検 を行うほか、清掃ロッカ ーの掲示物を分かりやす くし、環境を整えたい。 また、職員・来賓用トイレ が新しくなるため、新 たな掃除用具の購入や、 掃除方法を検討する。
		・「自らすすんで挨拶が できる」「交通ル ール・マナーを守 る」と答える生徒 90%以上	・「自らすすんで挨拶ができ る」93.8%、「交通ル ール・マナーを守っている」 98.6%であった。 ・交通事故件数 18 件（11 月 末）学校周辺危険箇所の調 査を、浜松市「いっちょ お！」を活用し実施。	B	・昨年同様、アンケートの 結果は良いが、社会的な 目線で考えればまだまだ 改善余地がある。 ・交通ルール・マナーは、 命にかかわるため、継続 的に指導を行っていく。

様式第3号

ウ	体系的なキャリア教育の実施	・「進路指導を含めたキャリア教育（総合的な探究の時間）が充実している」と答える生徒90%以上	・「進路指導を含めたキャリア教育が充実している」と答えた生徒84.2%。 ・模試分析は各学年2回以上、進路だよりは3学年合計30号以上発行した。 ・総合的な探究の時間については、2月にアンケートを実施する予定。	B	・探究課の計画的な指導もあり充実と回答する割合が高かったが、進路行事が少なく、次年度は系統的な計画を立てる必要がある。また、探究活動やボランティア、資格取得などが総合型選抜につながるような指導も必要である。 ・模試が基礎学力の定着につながるよう、教務課と連携したい。 ・探究と進路をつなげるために、入試の情報収集や総合型選抜試験に向けての指導方法など、進路課との連携が必須である。 ・今年度から探究をゼミ形式にした。各グループの進捗状況の把握がしやすくなり、生徒支援が充実した。ゼミ形式のメリット（指導教員の専門性）を生かしていきたい。
		・卒業前アンケートで「決定した進路先に満足している」と答える生徒90%以上	・進路内定生徒に対して12月に実施したアンケートで、「決定した進路先に満足している」と答えた生徒は85%であった。	A	・就職は、ほとんどの生徒が1回目で合格。進学も総合型選抜、学校推薦型選抜で合格し、第1希望の進路を実現できた生徒が多い。
エ	国際理解教育の推進	・相互のプレゼンテーションを3回以上実施する。 ・浜北国際交流協会との連携	・タイやフィリピンの留学生らが全クラスの授業に入り、授業で相互プレゼンを行った。 ・浜北国際交流協会の協力でタイ国との交流や国際理解教育を進められた。	A	・留学生のホストファミリー探しが困難である。 ・本校生徒が留学生に英語で話しかける光景がよく見られ。国際交流意識が醸成された。
		・オンラインでの交流3回以上実施	・タイ国シリントン学校の生徒11名・教員2名が来校し、対面交流を実施。 ・「アジアの架け橋」によるフィリピンの留学生1名が4カ月間滞在した。 ・シリントン学校（1回）・国立鳳山高級商工職業学校（2回）の計3回のオンライン交流を行った。	A	・次年度も、留学生を積極的に受け入れるとともに、オンライン交流を継続する。 ・本校の基本プログラムを構築し、担当者が変わっても長く継続できるように体制を整備したい。 ・令和7年8月に、本校生徒約10名がタイへ訪問する予定である。

オ	大学や企業・地域・保護者等との連携や協働活動、貢献活動、広報活動（探究の時間を含む）	・県大会出場 10 部活以上 ・1 部活 1 地域交流活動（地域貢献活動・協働・連携等）の実施 ・校内への普及体制（窓口）の確立	・予選を突破しての県大会出場は 11 部活で達成した。（12/10 現在） ・1 部活 1 地域交流活動は中学生との交流も含めると 17 部活で実施した。	A	・26 部活があるが、多くの部活動が活発で充実した活動を行った。 ・中学生や外部団体と交流し、地域に目を向けた実施ができた。今後は実施報告も含めて広報活動に繋げたい。
		・各委員会の開催年 5 回以上 ・生徒による具体的活動の実施	・各委員会でそれぞれ活動を実施できた。 ・文化祭や体育大会は、一般公開し、外部へ活動を発表することができた。球技大会など生徒主体の行事も成功させることができた。	A	・各委員会で積極的に活動することができた。 ・学校行事はコロナ前に戻せるように、また新たな形も取り入れながら実施することができた。 ・生徒が主体で活動する場面を意識的に組み込み、活発化させていきたい。
		・連携した防災教育の機会 2 回以上、地域防災リーダー育成と防災訓練の見直し ・保護者・地域の方の来校が増加	・避難経路の確認や HUG 体験により、防災意識を高めることができた。 ・行事への保護者の参加が増加した。文化祭の炊き出しは、PTA 役員が中心となって生徒や来場者に還元することができた。 ・「PTA 活動が活発に行われている」と答える保護者が 85%以上あった。	A	・雨天時の避難訓練の内容を事前に考えておく必要がある。 ・起こり得る被災を想定して、より実践的な訓練になるよう工夫していきたい。 ・体育大会では保護者の来校が増えてにぎやかになったが、観覧場所が少なく狭く、課題となった。
		・連携したキャリア教育の機会 3 回以上	・1 年は、県西部地域局危機管理課職員による HUG（避難所運営ゲーム）体験を 3 月に実施する。 ・1 年は地元の企業見学、2 年は大学見学を実施。	A	・実際に働いている場面や大学の模擬授業などを通し、具体的に進路を考えるきっかけとなった。
		・連携又は協働した安全教育の機会 1 回以上	・薬物乱用防止講座（全校）、思春期講座（1 年）、熱中症予防講座（運動部）を企画し、外部講師を招いて安全教育を実施した。 ・総探の時間にがん経験者の方を招き、「がん教育」を一部生徒に実施した。	A	・どの講座も、事後アンケートから多くのことを学ぶ良い機会となったことが確認できた。今後も実態にあった講座を企画していきたい。
		・探究検討委員会を毎月開催 ・3 年生の進路を意識した探究活動の構築 ・3 年間の流れを検討・修正していく。	・毎月探究検討委員会を実施できなかったが、学年担当との活動状況の把握や共有など含め、小規模の会議を実施できた。	B	・事前に会議日を設定しないと、毎月実施は困難である。次年度に生かす。 ・進路を意識した活動、3 年間の流れを、分掌を超えて検討していく。

様式第 3 号

		・HP 更新週 3 回以上、学校便り（あらたまだより）等の作成や SNS の利用で広報活動を充実させる。 ・中学生向け学校紹介動画をリニューアルする。	・HP 更新は、週 3 回以上実施できた。HP を 11 月にリニューアルした。学校公式 Instagram を 5 月に開設し、フォロワー数が 1,000 を超えた。 ・「あらたまだより」を年 2 回発行した。 ・学校紹介動画を生徒会が作成し、好評を博した。	A	・11 月の新 HP 移行後、更新数が減少したので、各部活で北西ブログをアップできるよう、引き続き個別研修を行う。 ・「あらたまだより」のペーパーレス化についても次年度は検討したい。
--	--	--	--	---	--

カ	業務改善の推進	・各学年・分掌、運営委員会等で意見の集約を図る。	・各学年・分掌、教科等に年間計画を配布し、見直しをお願いした。 ・業務改善に関する教職員アンケートを実施し、次年度に向けた改善案を作成・提案している。	A	・各部署から提出された年間計画を集約し、バランスをとりながら次年度年間計画を作成できた。 ・現状に甘んじることなく、全職員で協力し、知恵を出し合い改善していきたい。
		・部活動計画表の作成（年間及び月間）、提出 ・各部活動、年間 80 日以上 の休養日の設定を心掛ける。	・各部活動が適切な休養日を設け、計画的な活動を実施できた。 ・一方、作成した練習計画が生徒から保護者に届いていない状況もあった。	B	・計画的で活発な活動が実施できている。 ・練習計画を早期に作成・提示することを継続するとともに、保護者が閲覧できる環境を全部活動で整えていく必要がある。
		・学校メールや Google カレンダーを積極的に活用し、校務の DX を推進する。	・Google チャットや Google カレンダー、Google スプレッドシートの活用を全職員で行い、情報共有・時短に役立てた。 ・絆ネットによる欠席連絡の方法を見直し、業務軽減できた。 ・新採点システム（百問繚乱）の県立高校一斉導入により、採点業務が大幅に削減した。	A	・今年度は県教委の意向により、Google 系のツールと新採点システムの導入・活用が一気に進んだ。教職員により活用状況にはまだ差があるため、次年度は校内研修テーマを「ICT 活用」とし、校務だけでなく授業においても DX を推進していきたい。
		・計画的な業務計画の推進 ・学校経営予算運用の効率化 ・業務分担の明確化	・各主任を中心に、計画的な業務遂行ができている。 ・今年度は年度途中で予算が決定する特別事業（DX ハイスクール、行きたい学校づくり、グローバルハイスクール）があり、調整に労力を要したが、有効に活用できた。 ・当初予算は計画的に執行することができた。	A	・特別事業による予算があることで、教育活動が充実しており、大変有難い。 ・次年度も特別事業は継続するため、計画的かつ有効に活用したい。